

土木学会四国支部 「土木紀行」 No,12 (香川県)

～香川と徳島をむすぶ いま・むかし～

香川県南部に広がる讃岐山脈北嶺に位置し、丘陵地が広がる旧琴南町(まんのう町)。旧琴南町は、過疎山村地域であり、町の幹線道路である国道438号が未開通であったため、地域の発展を大きく阻害されていました。しかし、国道438号と徳島県美馬町を結ぶ三頭トンネルが平成9年3月に開通し、徳島県との交流も活発化しています。



図1, 三頭トンネル(香川県側から撮影)

(全長2648m 香川県1165m 徳島県1483m)

この三頭トンネルが出来る前は、“借耕(かりこう)牛”が通っていたことで有名な峠を歩いて越えて行かなければならず、徳島県美馬町まで2時間もかかったそうです。

“借耕牛”とは、香川県の農家が、農繁期に徳島の山間部の農家から田の代掻きや田畑の耕作といった農作業のために賃借りする牛のことです。徳島の山間部は草資源が多く牛を飼いやすく、反対に香川県では草資源に乏しく、牛を飼うのが容易でなかったなどの事情から行われるようになりました。借耕牛の代償は米で支払われていましたが、その額は牛の大小・強弱・鍬の仕込み具合などによって相場が決められていました。讃岐の人は、阿波の人から貸してもらった借耕牛を連れ帰り、自分の牛のように大事に育てて、ある程度成長したら仕事をさせます。そして農閑時になると、また牛を返します。この慣習は、機械化以前に行われていたものであり、昭和30年前半まで続いていました。このように、徳島県の農家と香川県の農家の結び付きは古く、三頭トンネルが開通したときに、年配の方ほど感慨深いものがあったに違いありません。



図2、国道438号の橋には当時を思い出させる借耕牛のレリーフがある

借耕牛を引き連れた人々の休憩所として利用されていた四つ足茶堂を紹介します。四つ足茶堂は、県道438号からやや離れた小さな橋のたもとに位置し、四国遍路や金比羅参りの旅人や借耕牛の人々の休憩所として利用されていたそうです。

昔、大川山から石地藏が転げ落ち、里人が何度も担ぎ上げたが、翌朝また同じところに転がってきたため、お堂を建ててお地藏様をお祀りしました。昔建っていた茶堂は四本柱でしたが、明治の初年に火事で焼け、近くで生えていた大きなガヤの木を切り八本柱、高床の現在の建物に再建されました。また、昭和50年に国の民俗文化財記録保存に指定されています。ところで、茶堂のある辺りは、言い伝えによると、スモトリ坊主という妖怪が現れており、人が通りかかると、妖怪は「スモウとらんか」としがみつきの、相手をすればへとへとに負かされてしまうそうです。しかし、地藏を祭ってからは、妖怪は見られなくなったそうです。

このようにユニークな言い伝えが残る四つ足茶堂ですが、街道がなくなった現在では、休む人もおらず、寂しい雰囲気を漂わせています。しかし、春の彼岸と盆の15日には、近くの当番の家が握り飯やお菓子を準備して参詣者に接待を行っており、その時ばかりはにぎやかさが戻ってきます。



図3、茅葺き屋根が特徴の四つ足茶堂

なお、四つ足茶堂のある八峯川上流に向かうと、大滝大川県立自然公園八峯園地があり、町内一の滝である小橋滝が望めます。この上流には、落差では町内一と言われる竜王滝もあります。興味を持たれた方は、ぜひ足をお運び下さい。



図4、小橋滝

参考文献

21世紀へ残したい香川 <http://www.shikoku-np.co.jp/feature/nokoshitai/ken/6/index.htm>
まんのう町 <http://www.town.manno.lg.jp/>